

庭の方位

庭園文化研究分科会 宇野 真一

1. はじめに

視察で訪れた日本庭園6ヶ所のうち、建物の南側に庭園があったのは鱒淵寺本坊だけである。

その後訪れた一畑寺書院は東側、原鹿豪農屋敷は西側、平田木綿街道沿いの石橋家・分家もおなじく西側、最後に訪れた康国寺書院は北西に庭が設けられている。

いずれも、経済的理由から南側に設けることが困難であったとは考えにくい。作庭にあたって、“日当たりの良い南側に庭を設ける”という現代の常識？とは異なる価値観や美意識があったのではないだろうか。視察に訪れた庭園とは離れるが、今回のレポートでは庭の方位について考えてみたい。

2. 『出雲流庭園 [歴史と造形]』記載の庭の方位

視察先の庭がたまたま偏っていた可能性も否定できないため、簡易な文献調査を試みることにした。

対象に選んだのは『出雲流庭園[歴史と造形]』、20代後半の若い造園家・造園設計家2人が出雲地方の主要な庭園を調べあげたもので、奥付には昭和50年発行とある。

この中では出雲を中心に33ヶ所の庭園が取り上げられ、そのうち28ヶ所には現地調査に基づく平面図が記載されている。作庭年代が不明な庭も多いが、概ね江戸末期から明治にかけて作庭されたと考えられ、江戸初期に遡るものはないようである。

図面を基に28ヶ所の庭を方位別に整理して結果を下表に示す。

表1. 出雲流庭園[歴史と造形]に記載されている庭 (赤字は出雲流とされる庭の数)

方位1	庭数	寺社	個人宅	方位2
北西	3	2-2 康国寺、八雲本陣	1-1 糸原諒氏	概ね北側 総数 14-8 寺社 7-4 個人 7-4
北	5	1-1 普門院	4-1 北島氏、千家氏、小幡山荘、和田氏	
北東	2	1-0 城安寺	1-1 秦氏	
東	4	3-1 一畑寺、是心院、古門堂露地	1-1 佐草氏	
東南	1		1-1 糸原記念館	概ね南側 総数 14-12 寺社 2-1 個人 12-11
南	2	1-1 管田庵	1-1 一瀬氏、	
南西	5		5-4 秋上氏、加藤氏、黒崎氏、江角(文化伝承館)、矢野氏	
西	6	1-0 明善寺	5-5 広江氏、布野氏、江角(豪農屋敷)、勝部氏、山本氏	
計	28	9-5	19-15	

出雲流庭園の特徴でもある南西から西側の庭は確かに多いが、予想以上に方位にバラツキが見られる。日当たりが良いと思われる東南から南側の庭は少なく、北側の庭が意外に多い。

個人宅として分類したが、北島氏・千家氏・佐草氏は宮司家、木幡山荘は隠居所なので通常の民家とは異なる。これらを除くと、個人宅の庭は北側3ヶ所・南側 12ヶ所となる。民家の庭はやはり南側が多いと言えなくもないだろう。(机上調査だけなので、これ以上の推定や断定は控えます)

一方、寺社は南側の庭が圧倒的に少ない。“日当たりの良い南側に庭を設ける”というルールが存在していないことは明白なようだ。

3. 民家の屋敷構え

一般に、農村地帯の民家は収穫物の乾燥などを行うため、建物の南側に“日当たりの良い農作業スペース”を確保している。民家建築は一間取りから二間・三間取りへと発展するにつれて部屋ごとの機能分化が進んでいく。入口に近い部分は土間のまま残されるが、隣接して囲炉裏を切った勝手が設けられ、さらに、座敷や表といった格式の高い空間が“日当たりのよい”南側に、納戸や離れといったプライベート空間が北側に配置される。食料の保管場所でもあった土間は、おそらく西日を避けるためと思われるが、建物の東側に配置され、座敷・表は必然的に南西側に配されることが多い。

経済的に余裕が生まれると庭園を設けるようになるが、その場合、土間や納屋に近い前庭農作業スペースの東半分はそのまま残し、座敷や表に近い西半分が庭園に転用される。典型的な出雲流庭園も南・南西側に設けられることが多いが、これは、農村地帯の民家に共通する傾向と思われる。

さらに経済的に豊かな場合、原鹿豪農屋敷のように母屋とは別に西座敷を設けることもある。その場合、庭は敷地西側に拡張される。いずれにせよ、個人宅では敷地の南～南西～西側に庭が設けられているケースが多いのは、樹木にとっての日当たりといった理由ではなく、座敷や表から眺められることと、そこに転用できるスペースがあったことが主要因と思われる。

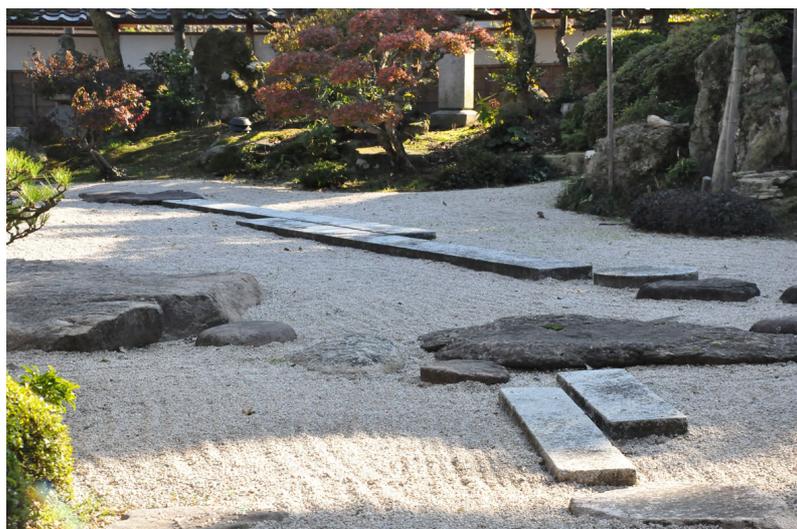


図 1. 原鹿豪農屋敷の庭（出雲流庭園の典型）

4. 日本庭園の歴史

次に、寺社の庭に北側が多い理由を考えてみたい。作庭年代から寺社庭園の多くは『書院造庭園』の影響下にあるものと想像できるが、その『書院造庭園』の特徴を把握するため、日本庭園の流れを時代区分にそって強引にまとめてみた。ただし、一般には縄文～古墳時代のものを庭園に含めることは少なく、飛鳥～奈良時代の庭園は遺跡などから断片的しか類推できないため、機能・様式ともに不明なことが多い。『寝殿造庭園』『書院造庭園』『露地』『大名庭園』などが代表的な様式である。浄土庭園は『寝殿造庭園』に、枯山水は『書院造庭園』に含まれると考えてもよいが、著名な庭園が数多くあり、別の様式として紹介されることもある。

庭園の機能に着目すると、太古のストーンサークルから平安時代の『寝殿造庭園』まで、庭は祭祀・儀式・饗宴のために利用される空間であったといえる。平安後期に成立した『作庭記』では、寝殿の南側に設ける儀式用の空間を『庭』、その庭から続く池泉や山野筋を設ける空間を『南庭』と呼び分けている。儀式用の空間こそが『庭』なのだ。『寝殿造庭園』の屋敷地は一町四方(120m×120m)を標準とし、なかには2町×4町といった広大な敷地もあったといわれ、その構成には四神相応といった思想の影響も見てとれる。敷地南側に庭園を設けているが、その空間コンセプトが現代に繋がるとは思えない。

表 2. 日本庭園の変遷

時代区分	機能	特徴	事例	備考
縄文・弥生	まつりの場	葬送儀礼、自然畏敬	ストーンサークル	
古墳時代	祭祀空間	強大さの象徴、水利・灌漑、美意識？	前方後円墳(方丘) 周濠、水辺祭祀	
飛鳥時代	天皇祭祀	幾何学的平面の池、石積み護岸、精巧な石造物	酒船石遺跡など	日本書紀・路子工(みちこのたくみ)
奈良時代	貴族階級による儀式・饗宴の場	不整形平面の池(曲池)、州浜、自然石の石組み	平城京跡の庭園遺構	遣唐使
平安時代	宮廷貴族による儀式・饗宴の場	寝殿造の成立に伴う 寝殿造庭園 、浄土庭園	神泉苑、平等院、毛越寺庭園	前栽秘抄(作庭記)
鎌倉・室町	禅僧が求める境致(伽藍一帯の優れた景観)	環境美の創造、眺望を活かした造形や石組み	建長寺、西芳寺、	蘭溪道隆、無窓疎石
戦国・安土桃山	戦国大名の社交の場からの眺め(会所・書院)	書院造の確立(=視点の固定化)、 書院造庭園	東山殿、龍安寺、二条城二の丸庭園	枯山水 の成立
	茶室に到る庭園空間	書院→草庵→侘茶、 露地 の成立	待庵、燕庵、孤篷庵・忘筌	利休、古田織部、小堀遠州
江戸時代	上流武士階級の社交の場としての回遊式の庭	池庭、露地の機能・デザイン、枯山水技法の総合化	桂離宮、修学院離宮、小石川後樂園	大名庭園
近代	新興有産階級の新たな庭園観に基づいた庭	写実的に景色を再現しようとする自然主義式庭園	無鄰庵、三溪園	小川治兵衛
近代	芸術・環境としての庭	石組の象徴性、環境・建物との調和	東福寺方丈南庭、等々力溪谷公園	重森三玲、飯田十基

鎌倉・室町時代にはいと儀式・饗宴の場が『庭』から『室内』へと移行していく。利用するための『庭』はその役割を失い、視覚的にも観念的にも、観るための『庭』に変わっていった。この変化は、蘭溪道隆に代表される禅僧がもたらしたと考えられる。禅僧は『境致』と呼ばれる“自然と伽藍が融合した精神性の高い景観美”を実現すべく、山間に寺を開き、新しい概念の『庭』を造りあげていった。

建築史的には、この時期に『書院造』が確立される。床の間が設けられ上座・下座が明確化された『書院造』の建物では主客の視点が固定化される。自然地形を活かしつつ、鎌倉の狭隘な谷間に設けられた庭は、床の間・上座からの景観・眺望が重要視されたと思われる。

5. 現代に繋がる日本庭園のイメージ

江戸時代に生まれた『大名庭園』は池泉回遊式の庭で、桂離宮がその最初の例とされる。この庭園の特徴は、古代から続く池庭に枯山水の技法と露地庭の機能・デザインを取り込んだ構成にある。

日本庭園と聞いて多くの人が思い浮かべる、石灯籠・蹲(つくばい)・鹿脅し(ししおどし)・飛石などは全て露地庭からの転用であって、それ以前の日本庭園に存在していたものではない。日本庭園の真髄・骨子は池泉・流れと石組みだけと唱える作庭家も多い。

『大名庭園』は小規模なもので4～5ha、将軍家ともなれば20ha以上の広大な敷地に設けられた庭である。地割りのコンセプト自体、とうてい真似できるものではないが、その総合的デザイン(池泉と露地庭の道具立て)こそが日本庭園の標準的イメージである。

庭と方位に関する当初の疑問に戻ってみたい。以下のような推測が成り立つのではないだろうか。

1. 『書院造』では客間、『民家』では座敷・表からの眺望を重視して庭を設けることが一般的。
2. 『民家』では、座敷・表が母屋の南西、その前の農作業スペースが庭に転用された。(庭は南側)
3. 『書院造』では、自然地形にあわせて最も眺望が良い場所に客間を設ける。(南側とは限らない)さらに私見ではあるが、次の点も指摘できよう。
4. 北にある花木を南から眺めたほうが美しい。(花も葉も日当りのよい南面が美しい＝庭は北側)



図2. 康国寺庭園

参考文献 『出雲流庭園〔歴史と造形〕』 小口基実・戸田芳樹 S50

『築地松物語』 島根県斐川町 H5

『庭師が読みとく作庭記』 小笠雅章 学芸出版社 H20

『日本庭園一空間の美の歴史』 小野健吉 岩波新書 H21